

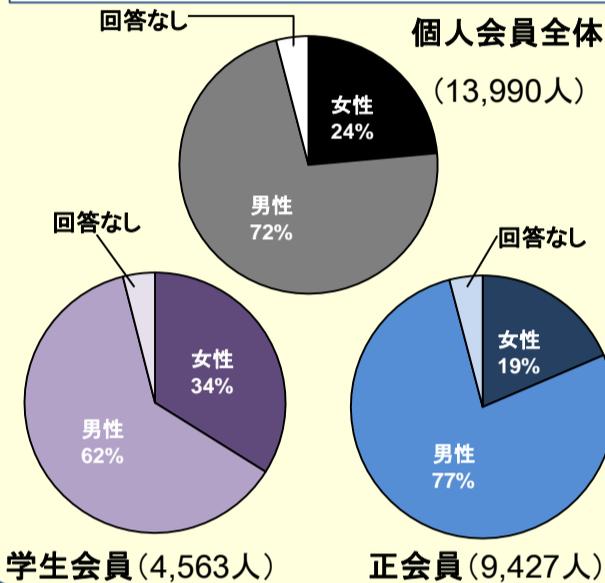
シンポジウムでの発表者・オーガナイザーの女性比率は、
学会員全体における女性比率と比べて低いのではないか？

日本分子生物学会男女共同参画委員会(現:キャリアパス委員会)では、上記の疑問を持ち、2009年度から継続して年会発表者の属する性(属性)について調査している。

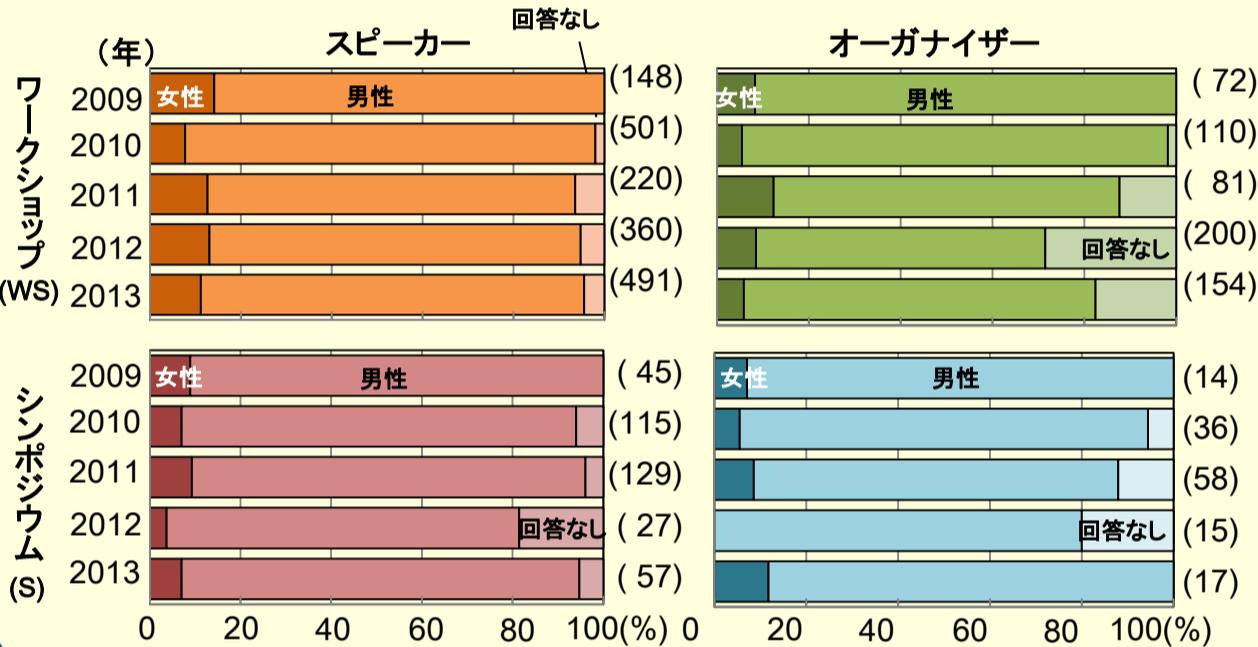
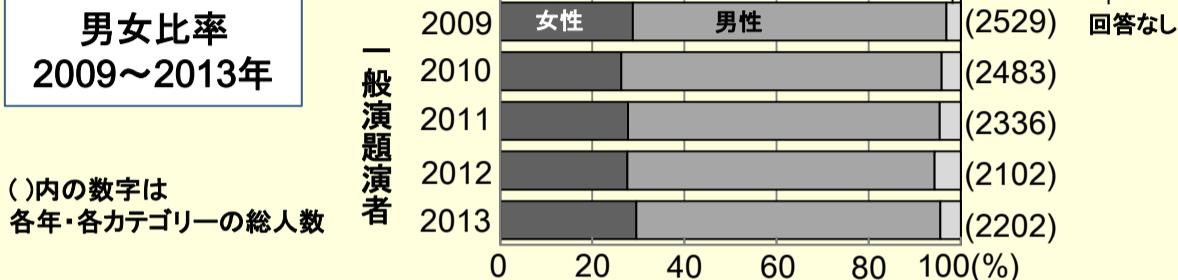
目的: 大学や研究機関での男女共同参画を推進するためには、学術研究発表の場である学会において、優れた研究は性差に関係なくスピーカーやオーガナイザー等、目で見える形で発表の機会を与えられたり評価される仕組みを作ることが必要である。そこで年会における発表者の実態調査を毎年行い、学会員の属性ならびに発表カテゴリーごとの発表者属性について、基礎データを収集する。

方法: 年会演題登録時に各演題登録者から回答を得た(回答は任意)。また、オーガナイザーについては母数が少ないため、学会事務局からのメールによる属性調査(回答は任意:ワークショップ(WS)オーガナイザー対象)およびWEB検索する方法(シンポジウム(S)オーガナイザー対象)を併用した。

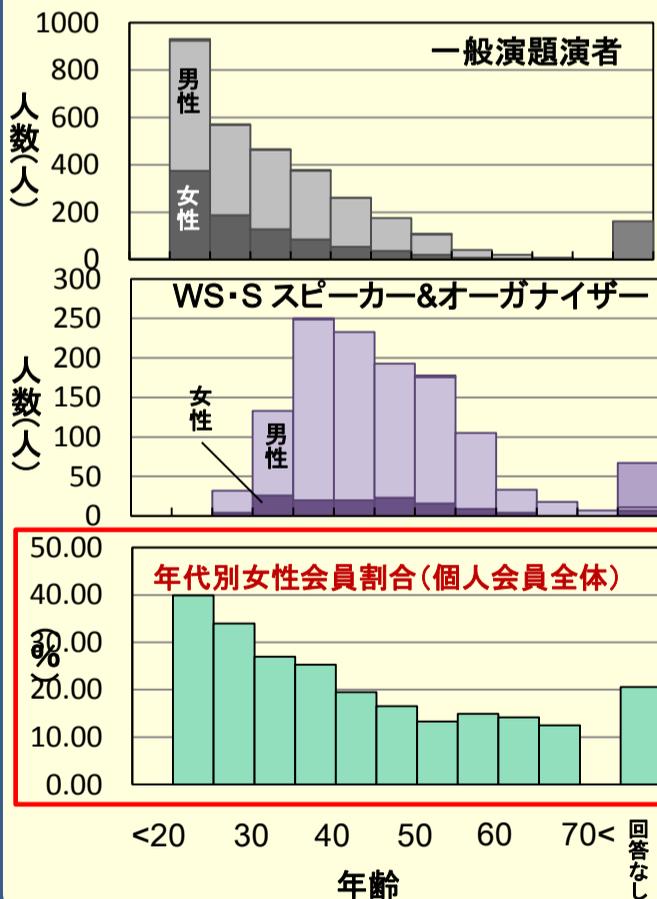
日本分子生物学会会員 男女比率 2013年



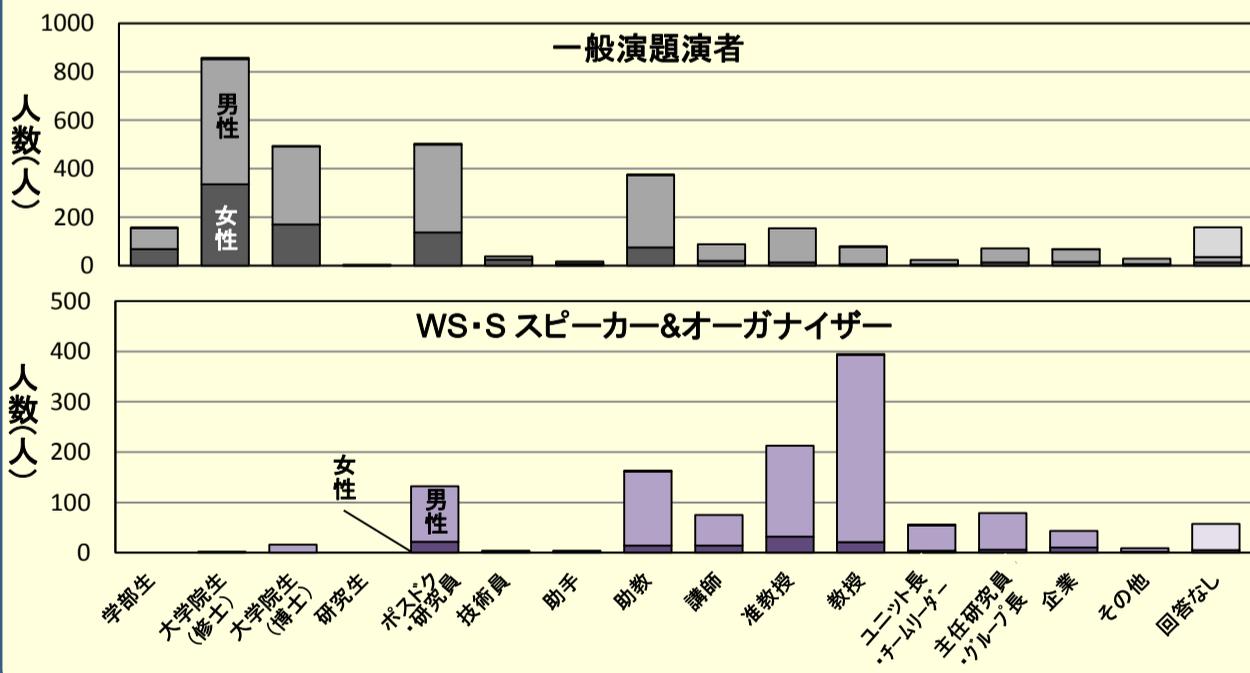
男女比率 2009~2013年



年齢層分布 2013年



職階分布 2013年



属性調査 まとめ

学会員の男女比: 2009~2013年の間ほぼ一定で、女性の占める比率は会員全体で1/4、学生会員で約1/3、正会員で1/5であった(過去データは非表示)。

一般演題発表者の男女比: 学会員の男女比にほぼ等しく、過去5年間で大きな変化はみられなかった。

WS・Sのスピーカー&オーガナイザーの女性比率: 正会員の女性比率よりも低く、この傾向に過去5年間で大きな変化はみられなかった。女性会員割合が年齢層が上がるに従って低くなっていることが、WS・Sのスピーカー&オーガナイザーの女性比率が少ない原因の1つと考えられた。しかし、例えば会員の40~45歳の女性比率は約20%であるにもかかわらず、WS・Sのスピーカー&オーガナイザーに占める女性割合は8.6%であった。

職階分布: WS・Sのスピーカー&オーガナイザーは、一般演題演者に比べ高い階層にある。これら階層での女性比率は低く、また、キャリア・アップを必要とするポスドク、研究員、助教などでも明らかに低かった。

今後の対策: 継続的な調査を続けて情報発信・啓蒙活動に努めるとともに、スピーカー&オーガナイザーの増加に向けた具体的な取り組みが必要である。